
猫耳姫巫女と聖なる槍の担ぎ手と

三歩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

猫耳姫巫女と聖なる槍の担ぎ手と

【Nコード】

N6260Y

【作者名】

三步

【あらすじ】

写しの世界：今いる世界と対となるもう一つの世界は魔法文明が発達した世界だった。主人公の月影光太は”つきかげこうた写しの世界の自分”に向けられた（勢いがつき過ぎた）聖なる槍に貫かれ写しの世界へと引き込まれてしまい…。そこで彼は猫耳の少女と出会い世界を救う（かもしれない）行動に出る…。

ライトでチートな異世界トリップ物語です…。

タイトルを「猫耳姫巫女メイドと聖なる槍の担ぎ手と」から変更しました。「メイド」が内容を進めていくうえで助長と感じカットし

ました。

プロローグ（前書き）

開いて頂き感謝・感謝です！

プロローグ

「眠い…」

目を手の甲でこすりながら朝の街並みを歩いていく。

勤めている会社に出勤するため最寄駅に向かっている。

因みに就職して2年目だが今年、うちの会社は新規採用を取らなかったのもまた下っ端だ…朝も少し早早目に行って色々と用意しないとチクチク上司に嫌味を言われる。

バーガーを右手に、ドリンクを左手に持って食べながらテクテク歩いていく。

眠いのはタベやり過ぎてしまったから…新作ゲームを。

タイトルは「転生勇者vs異世界トリップ勇者」だ。

説明書には「初心者には転生勇者の方が扱いやすい」と書いてあったので迷うことなく異世界トリップ勇者の方を選んだ…。

はい、ヒネくれてます（笑）。

そんなこんなで歩いていると、

ピシッと変な音がした…。

周りの景色がストップした…。

目の前の空間にヒビ（？）が入って割れた…。

はい？

中から、美女が飛び出してきて
抱きついてきました…。

ラッキー？「グサ！」

え？

この女性…背中に何かはえている…。

異空間（？）の方から伸びている物…槍の柄？

三又の槍が女性の背中に刺さっている…。
あれ？…俺にも…刺さっている？

急に引っ張られた…。

槍の柄が元の空間に引っ込んで行く…。

どうもこの槍の穂先…”返し”がついているみたい。

だから…、つまり…、暗いその空間に自分も引き込まれる…ってわけだ。

やっぱし…夕べは…転生勇者を選べばよかったかな？意識が遠のいていくのを感じながら俺、月影光太は…そんなことを考えていた。

プロローグ（後書き）

更新間隔は不定期です。長めでノンビリ書いて行きます…。

眠い空間のなかでの対面（1）（前書き）

感謝・感謝です！

眠い空間のなかでの対面（１）

眠い…ひたすら眠い…。

気持ちがいいというか…ひたすら眠い…。

（…おい、……………か？）

ぼうつとしている意識に何者かが語りかけてくる…うるさい。

（新聞も宗教も間に合ってるよ。）

（？…新聞はともかく、…そっちの世界は宗教を押し売りするのかい？）

（ああ、こないだ駅のホームでイキナリ祈らせてくれて。迷惑だ

よ…。。。）

ゴットプレス

（祝福を無料で？かなりいい話じゃない？）

（言い訳ないじゃん。別に宗教に文句つけてるんじゃないよ、イキナリ声かけられたらびっくりしするんだよって話し…、てっ！誰？）

眠い目をやつのことで開くとすぐ目の前に美女がいた。

今の状態は抱き合っているといって良い。

北欧系の人種かな？白に近い金髪に灰色の瞳、見つめていると吸い込まれそうな気になる。抱き合っているので、つまり密接しているのでよくわかる、スタイルは抜群だ。

（アイ キャンノット スピーク イングリッシュ！）

（イングなんとかがしゃべれない？…なんだ？）

目の前の美女がしゃべった。

日本語で？なんか口の動きと言葉が違う様な気がする。

（日本語しゃべれるのか？）

（？…そっちの言葉かい？全然ムリムリ！）

お手上げのポーズをしてきた。

なんかこのポーズは美女には似合わないな。

（これは推測だけどね、声が頭に直接聴こえる気がするんだ。この空間の特徴か、あるいはコレと一緒に貫かれている影響か…。なんにしるコミュニケーション取れるのは便利だよな。）

そうだよな、異世界に行つてまず、始めにぶつかる困難は会話や言語…つまり意思の疎通が難しいってことだ。

タベもゲームでそれをなんとかするイベント「言語理解の魔法を手に入れる」をやったっけ。メツチャご都合主義なイベントだよな。

あれ？異世界？

眠い空間のなかでの対面（2）（前書き）

感謝・感謝です！

眠い空間のなかでの対面(2)

ゲームや小説でよくある話だけど、現実になるとちょっと焦るな。

(えーと、ココドコ？ワタシダレ？)

(それだと記憶喪失から目を覚ましたばかりの人っぽいんだけど
(笑))

(お約束に突っ込んでくれてありがとう。で、ドコ？ダレ？)

(今度は思いつきり短くしたなあ(笑)。さすがオレの「写し」なだけある)

(「写し」？)

(簡単に言つと、オレの世界と対となるもう一つの世界、「写しの世界」があるらしいんだ。そこにはもうひとりの俺が、「写しの俺」がいるみたいなんだよ。つまりそれが君だと思つよ！)

(わからないことが多いけど…なんで俺が？ていうか男言葉似合わないねキミ。)

(ソロソロ消えるよ…この姿。)

見ていると、顔が変わっていく。

触れ合っている柔らかい女性の体が、固い筋肉質の体になっ
て行くのが感じられる。

やがて男性…服装はそのままだけど…になった。

(俺そっくり！)

(変身の術さ…。な！そっくりだろ…だからそうだと思つよ。)

(うん、キミの言う「写し」って説明は理解出来た…体感的には
なんかすつごく損した気分だけど…今までの姿は？)

(惚れた女の姿だよ…影武者つてのをやっててね…彼女の身代わり
に聖なる槍の攻撃を受けたってわけさ。)

（そうか…男だね！エライぞ俺！）

（オレだオレ！お前じゃないだろ…。まあ…、オレじゃこのくらいがせいぜいなんだよ…。）

（その言い方、なんか身に覚えがある…まさか彼女には彼氏がいるのか…俺意外に。）

（だからお前じゃないだろ…。まあ、向こうはオレのこと最高の友達って言ってくれてたしなあ。）

（必殺・生殺し！だね。）

（くっ、さすがにオレの写し！グサつときた…でも俺の写しなら同じ様な経験あるんだろ？）

（グサつときた！返された！さすが俺の写しだぜ！）

なんか恋の話で盛り上がってしまった。異世界の話はどこいったんだろ？

眠い空間のなかでの対面(3)(前書き)

感謝・感謝です！

眠い空間のなかでの対面(3)

(まあ、話を戻そう。ダレ？はもういいや。どこ？の話をしてくれる。)

自分と抱き合ってるって…正直変。

周りを見渡すと、今いるのは直径10mくらいの光る球体の中みたいだ。

外がつつすら透けて見えるけど様子はよくわからない。

(まあ、槍から散々逃げ回ったからどこにいるのかよくわからん。
…因みにこの球体は「聖なる槍の結界」だと思う。この中で封印されて一生を過ごすのさ。)

(…今さらりとすごいことイワナカタ？封印？出られない？
ハッ！俺がこうなった理由がまだわかんないままだった！)

(この状況で案外平気だなあ、たぶん…槍の力が強過ぎたんじゃないかな？…大魔王クラスを封印する力を俺みたいないなペーパーに使用たから…だから写しの世界にまで影響を…。まあ、この辺は俺も全然わかんないから推測だけだな。)

(そうか…つまり…全てはこの槍を使ったやつのおかげか！)

(そこで、オレを恨まないところがオレの写しだよな。「ザ・責任は他人にあり」思考！)

(くっつ、責任者出てこいー！ってくるわけないか。)

(（グスン…ゴメンなさい（泣））)

あれ？なにか女の子の声が聞こえたような。

魔法を使ってみよう！（1）（前書き）

感謝・感謝です！

毎回そうですが、かなり悪ノリ・ライトで行きます。

魔法を使ってみよう！（1）

（何か聞こえなかった？）

（？…いや、なにも聞こえなかったぜ。）

空耳かな？

（まあいいや。それより、このカッコどうにかならないかな？…そういえば、刺されてるのに痛くないや？そっちは？）

（こっちも痛くはない…。俺も又聞きだからよく知らないけど、伝説の神器”聖なる槍”には「魔破」の力と「封印」の力があると聞いている。その槍が俺に向かってシユビビーンと飛んで向かってきってから必死で逃げただけどずーっと追いかけてきてな。ついに刺された！と思ったらお前に会って、その後、この球体が現れてさ。痛みはないけど、なんか力が抜けてやたら眠たいんだなこれが…。）

聖なる槍の封印の効果なのか？

自分のほうも眠気は覚めない。

（もしかして寝たら封印中ずっと起きなくて眠り姫状態か…。苦しくないのはいいけどやだなあ。）

（じゃあ、眠くならないように、暇つぶしにそっちの世界のこと教えろよ。）

（その前に質問！さっきの「変身の術」って魔法？）

（当たり前だろ？…まさかそっちの世界にはないのか？）

（ピンポンその通り！なあ俺、魔法を使えないかな？ワクワク！）

（うーん…、カード魔法ならすぐ使えるかもな…？やってみる？）

（マジ！やるやる！なんでもやる！）

なんか今残念な状態だけど楽しめることは楽しもう！
魔法力モン！

魔法を使ってみよう！(2)(前書き)

感謝・感謝です！

魔法を使ってみよう！（2）

ジャジャーン！

ということと魔法を使ってみることになった！
できるかな？

（封印の効果で使えないかもしれないけどな。）

そう伝えてきてからカードを3枚出してきた。

（好きなを選びな。）

そう言って渡されたカードには

「霧？」、「手」、「オーロラ？」の絵が描いてあった。

（精霊属性の「霧化」と、ノーマル属性の「触診」と、光（聖）属性の「聖幕」のカードだ。光（聖）属性のカードはお前がオレと同じ闇（魔）属性だと心ポケット入れられないし、使えないけどな。）

（心ポケット？）

（まあやって見たほうが早い。どれか選んで心のなかに、胸の奥底に入れて願ってみな。）

まあやってみよう。

心に入っておくれよカードさん…お気楽過ぎかな？
おっと、すっかりどれか選ばないで願ってしまった。
が、手から全部のカードがふっと消えた！

（なんだって！全部入ったあ！？）

まだ魔法使っていないけど…案外すごいらしいな、オレ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6260y/>

猫耳姫巫女と聖なる槍の担ぎ手と

2011年11月24日07時45分発行